

省略してあるのか。

**A** コンクリート内側にステンレス製鋼板を張って密閉性を確保している。

**Q** 格納容器から漏れがないかどうかの確認はどのような方法で確認のか。

**A** 弁のつなぎ目などに石けん水を付けて泡が出るかどうかで確認。

(シユラウド)

**Q** EDM (放電加工) はどのような原理で削るのか？

**A** 削るというよりも、電極からの電子によりシユラウド表面の原子を吹き飛ばすというイメージ。金属は微粒子状になって水中に放出されるので、水といっしょに吸引しフィルターでこして処理する。

**Q** ひびを除去した部分にまたひびが生じるのでは。

**A** ひびができたところには、シユラウドの表面に引っ張る力(引張応力)が働いています。EDMでひびを取り除いた後にも引張応力が残るので、レーザーを使って表面を細か

くたたきます(レーザーピーニング)。これによって引張応力が縮もうとする力(圧縮応力)に変わり、ひびがでにくくなります。

**Q** レーザーで圧縮応力にするというが、その分、その周囲が引っ張られ、ひびがでやすくなるのでは。

**A** レーザーによって表面の引張応力が圧縮応力に変わるとその分の力は内部に分散され、周囲には影響を及ぼさない。従って周囲にひびがでやすくなるはない。



3号機・シユラウドの補修状況

**Q** シユラウドの補修は並行して他号機でもしているのか。

**A** EDM装置は4台あるが、号機ごとに順次実施していきます。

**感想**

シユラウドの作業を見せてもらい、水中深いところで補修作業は病院で言えば内視鏡のようなもので点検しているようで、外部への透明性の観点で説明は難しいと感じた。

(再循環系配管)

**Q** 再循環系配管はどこで支えてあるのか。

**A** 温度で配管が伸び縮みするため、バネで重さを支え、地震の震動等をダンパー(緩衝装置)で抑えている。

**Q** 再循環系配管の点検・補修ではどのくらい被ばくするの。今日の視察では結構ゆっくり見ていた気がするが、それで001mSvであったので案外少ないと感じた。

**A** 従事者は年 50 mSv、5年の総量で100 mSvと法令で定められている。当社では年20 mSvで管理しており、20 mSvに近づいた人は線量の低い作業をしてもらい被ばくしないようにしている。また、配管の除染(付着している放射性物質を取り除くこと)を行い線量を下げ

努力も行ってている。(私たちが1年間に受ける自然放射線2.4 mSvです。)

**Q** ひびの入った配管は見学できないのか？

**A** 配管内面が汚染されていることから直接見ていただくことはできないが、写真等で見せられる。

(1号機地階の地下水漏れの状況)



1号機・地下5階の外壁の補修状況  
希望する委員で現場を視察しました。

**Q** 見学させてもらってまったく問題がなかったとは言えないのではと感じた。(地下水漏れの跡があり、補修されていた)

**A** 隣の2号機建設の進行状